

②躰づくりの5つのステップ

- ① 躰けるための土台づくり「目で見る職場」
会社や工場での基本は、すべてのものがひと目でわかるようになっていることです。物の置き方、作業のやり方などひと目でわかれば正常と異常の区別が誰にでもわかり、躰けることができます。
- ② 3現3即3徹での「躰け上手と躰けられ上手」
ひと目でわかる職場で異常を見つけたら3現3即3徹で躰けます。3現とは「現場」・「現実」・「現物」をいい、3即とは「即時」・「即座」・「即応」を示し、3徹とは「徹頭」・「徹尾」・「徹底」を表わします。
この行動の基本原則に従い、躰ける人を躰け上手といい、躰けられる人を躰けられ上手と呼びます。
- ③ 躰けるための型「躰をつくる15の教え」
決められたことが守れない職場を目の前にして躰けるのですが、躰けるための教えが欲しいものです。
会社や工場では長年の経験から「白線は踏むな、またぐな。」などの教えが存在します。
- ④ みんなで進める「躰づくりの全社的推進」
会社の躰づくりはある特定の課や係だけが実践しても社会的な実行にはなりません。躰といえども、躰だからこそトップが先頭に立った全社的推進が重要となるのです。
- ⑤ みんなのアイデア「躰づくりの7つ道具」
全社をあげて躰づくりを推進し、定着させるためには、全員に広く行き届くバッチの着用や掲示板を活用した啓発活動などが効果的です。

③躰のない5Sはこうなる

- ① 不要なものを捨ててもすぐに不要物がたまる
- ② 要るものの中に要らないものが混在してしまう
- ③ 治工具や刃具を使ったら使っぱなしにする
- ④ 治工具や検査器具がいつの間にかなくなってしまう
- ⑤ 材料や部品を天井一杯に崩れるくらい積んである
- ⑥ トイレの床や窓にホコリが一杯たまっている
- ⑦ 機械や設備がチリやゴミそれに油で真っ黒になっている
- ⑧ ドリルやバイトといった刃具が無雑作に机の引出しに入れてある
- ⑨ 機械からオイルが漏れて床がヌルヌルになっている
- ⑩ いくら言っても保護帽をかぶらずに作業をする
- ⑪ チップが飛び散る作業で保護メガネをかけない
- ⑫ ボール盤の穴あけ作業で軍手をはめている
- ⑬ 材料や部品が納入されると、いつも安全通路に置いてある
- ⑭ 作業中や歩行でのくわえタバコをやめない
- ⑮ 作業場や通路のあちこちに吸殻が散らかっている
- ⑯ 製品を立てかけて倒れたりしてキズ・打痕が絶えない
- ⑰ 玉掛けの下へ入って作業をする
- ⑱ 1個流しの基本を無視して面倒くさがって10個ずつ流す
- ⑲決められた作業手順を守らない
- ⑳ どうにも挨拶ができない



5S活動に取り組みましょう

福井労働局
労働基準監督署

5S活動は安全の基本です。安全性の向上だけでなく、「品質向上」「稼働率向上」「納期達成」「原価低減」「多品種化効果」「モラル向上」にもつながる5S活動をぜひ実践しましょう。

5Sとは整理・整頓・清掃・清潔・躰しつけのことで、5つの頭文字がすべてSで始まることから“ゴウエス”と呼んでいます。

- ◎ Seiri:整理—要るものと要らないものをはっきり分けて要らないものを捨てる
- ◎ Seiton:整頓—要るものを使いやすいようにきちんと置き、誰にでも分かるようにする
- ◎ Seisou:清掃—常に掃除をし、きれいにする
- ◎ Seiketsu:清潔—整理・整頓・清掃の3Sを維持する
- ◎ Shitsuke:躰—決められたことを、いつも正しく守る習慣づけ



◎5S活動による7大効果

効果	5S活動によるメリット	代表的な活動項目	関連活動
安全性の向上	問題が顕在化し危険個所が少なくなる	置き場の明確化	整頓
品質の向上	異物、埃の付着がなくなり不良が低減する	作業場のクリーン化	清潔
稼働率の向上	故障が減少し機械の機能を発揮できる	機械設備の清掃	清掃
納期の達成	生産トラブルの減少で、生産の遅れが解消	取り置きのみダ排除	整頓
原価の低減	ムダな在庫と過剰な場所が排除できる	過剰な在庫の見直し	整理
多品種化	治具、部品が間違いなく切替が簡単になる	不要治具、部品の排除	整理
モラル向上	ルールが守れる職場の基礎ができる	3現3即3徹	躰

1 整理の仕方

①整理とは

「整理」とは、「必要な物と不要な物に分け、不要な物を処分する。」ことです。「不要な物」であるという判断をだれが行い、だれがどう処分するのか、管理の方法が明確に定められていないと「整理」は進みません。人によって「不要なモノ」の判断が異なることから、判断基準を明確に決めて周知しなければなりません。

「処分」は「廃棄」を意味し、単に物の置き場所を変えることではありません。特に、倉庫は不要な物をしまっておく場所ではないことを銘記しておきましょう。

②整理のすすめ方

- ①不要な物の廃棄基準、必要か不要かの判断がつかない物の要・不要を判断する責任者を明確にし、掲示します。
- ②当初の5S対策ゾーン(区域)を決定し、そのゾーン内を所属従業員全員で大掃除し、不要な物を廃棄する。
また、必要か不要かの判断がつかない物をリストアップし、その現物に「廃棄」の表示をします。
- ③必要か不要かの判断がつかない物は安全衛生担当者が判断し、不要な物を廃棄します。

- ④ ①の不要な物の廃棄基準に③の内容を盛り込みます。
- ⑤ 当初は1週間に1回、廃棄基準に従った、ゾーン内の所属従業員全員による整理を繰り返します。
- ⑥ 不要な物の廃棄基準を見直しましょう。
- ⑦ 場所別の整理担当区分を決定し、掲示します。
- ⑧ 5Sの責任者を決め、定期的に巡回して、整理の状況をチェックします。
- ⑨ 日常的なチェックのためのチェックリストを作成し、チェックします。
- ⑩ 反省会を開き、反省し、改善しましょう。



2 整頓の仕方

①整頓とは

「整頓」とは、「必要なときに必要な分をすぐ取り出せるように、必要な物を、わかりやすく、安全な状態で、位置させる。」ことですから、「整理」がよくないところでは、よい「整頓」はできません。

②整頓のすすめ方

- ① 現状を把握します(製品<ストック>、材料、生産機械、^{じゆうき}什器、道具、書類等の品目、置き場所、置き方、使用時の移動距離等)。
- ② 置き場所を決定します(ポイントは、使用時の移動距離。時間が短いこと)。
- ③ 置き場所ごとの、置く物の種類、必要数量を決定します(ポイントは、種類、量とも極力しぼること)。
- ④ 置き場所ごとの管理担当者を決定します(台車等の共有物には一つ一つについて)。
- ⑤ ③、④の決定内容の表示をします。
- ⑥ 取り出しやすく、しまいやすい置き方を決定します。(品質の確保、置き方の絵による表示を考慮)。
- ⑦ 色分け、影絵、はめこみ式、通し表示をするなど、的確な置き方を確保する方法をとりましょう。◆
- ⑧ 以上に従って位置させます。
- ⑨ 反省会を開き、見直し、改善しましょう。



3 清掃の仕方

①清掃とは

「清掃」とは「ごみ、ほこり等を取り除き、その発生源の管理をする。あわせて、施設、什器等の状態を点検する。」ことです。つまり、職場をごみナシ、よごれナシ、ほこりナシの状態にし、衛生的な状態を保つほか、施設、材料、ストック、什器、道具、表示、掲示、書類等を常にきれいな状態に保ち、それぞれの機能が順調に果たせるかを点検することです。

②清掃のすすめ方

① [全体のすすめ方]

目に見えて職場がごみナシ、よごれナシ、ほこりナシになっていくことが定着のためにも大切です。まずは、大掃除に取り組みましょう。整理が不十分な部分があれば、整理も同時に行います。清掃が終わったところで、通路、消火、避難関係等の線引き、表示等も、もう一度きれいに仕直しましょう。それから作業場、倉庫、通路、休憩室などの個別の箇所も実施し、物の点検も兼ねた清掃を日常化していきます。

② [分担・掲示]

清掃は全員で行うことが基本です。全員にもれなく担当区域を分担し、職場内に分担表を掲示します。特に共同で使用する休憩室、掲示板、ごみ箱、通路等は明確にしておくことが肝心です。

③ [時間]

清掃も仕事の一部です。その都度必要なケース以外は、始業時、終業時等に5分とか10分とか「全員で短時間で一齐に。」行いましょう。

4 清潔

①清潔とは

清潔とは整理・整頓・清掃(3S)が守られ、気持ち良い職場が維持されていることです。清潔の「清」は、「気持ちが良い。さわやかである。」といった意味があります。清潔な職場とは、決められたルールを確実に守り、こまめに掃除をしたりゴミを捨てたりした結果、「気持ちが良い。さわやかな職場ができた。」ことを指します。

②清潔のすすめ方

- ① 「面倒だから後からしよう。」「誰かがやるだろう。」と思っている限りは職場はきれいになりません。「3分で終わるからやっつけてしまおう。」という行動型発想で、自らが行動することが大切になります。
- ② 身だしなみを整えましょう。洗濯されたきれいな服装で仕事をすることで、製品の取扱いが丁寧になります。反対に汚れた服装では、製品の扱いがぞんざいになってしまいます。
- ③ 定期的に職場の整理・整頓・清掃の状態をチェックしましょう。チェック項目は15~20項目を目安にチェック表を作成します。
- ④ トップ自らも参加しましょう。社長、工場長といった組織のトップが現場を見て指摘をすると、従業員も5S活動に参加しなくてはならなくなります。

5 躰

①しつけとは

躰は従来武家社会における教育のやり方を表す言葉で、理を説いてのみ込ませて教えるのではなく、実際に自分の身体を使って習熟していく方法です。そこでは指導者が、望ましい一定の行動の型を与え、これを繰り返し反復、修練し、自然に身体の内側から望ましい形が表現できるように身につけることで、一定の行動様式を習慣づける意味合いがあります。

躰という字は本来中国の漢字にはないもので、「身に付いた美しさ」の意をもとにつくられた和製漢字の一つで、美しさを身に付けることを躰けるといいます。

5Sの中で躰は「決められたことを、いつも正しく守る習慣づけ。」と定義されています。この「決められたこと」が決まっていない会社では、躰という言葉は無意味となります。それは、決まりがない以上、**しつける**ことができないからです。このように、躰は単に5Sの1要素ということを超えて、企業発展の要ともいべき存在でしょう。その証拠に、朝の「おはようございます。」という挨拶さえもまともにできない会社では、TQC(トータル・クオリティー・コントロールの略で、全社品質管理のこと)や小集団活動など何をやっても定着していません。

